

平成28年度 現代文B（2年）の学習(シラバス)

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名 現代文B	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	東京書籍 新編現代文B			
副教材等	京都書房 テスト式 国語常識の総演習			

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な語彙, 漢字, 表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。</li> <li>・さまざまなジャンルの文章に触れ, 読み味わうことで語彙力, 読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し, 視野や思考の幅をひろげ, 自らの考えを深める。</li> <li>・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール, コミュニケーション能力を高める。</li> </ul>
--

3 学習方法

<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科書を繰り返し音読する。</li> <li>② プリントを用いて漢字の練習を行う。</li> <li>③ ワークシートを利用し読解を深める。</li> <li>④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる</li> <li>⑤ 問題集を使用して, 基本的な語彙, 漢字, 表現技巧を学習する。</li> </ol>
--

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション	・1年間の学習計画を理解する。	・正しく内容が理解できたか。
	5	随想 いのちと自然 『心、言葉、きずな』	・随想を読んで, 筆者の考え方や感じ方を的確に読みとる。	・漢字練習プリント, ワークシートの提出。
		問題集 第1回 P4～11	・個性的な表現を味わい, 随想の魅力を知る。	・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
	6	小説1 つながる心 『ナイン』	・情景や心理描写に注意しながら小説を読んで, 描かれた世界を的確にとらえる。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。
		問題集 第2回 P12～19	・小説に描かれたさまざまな愛や葛藤の姿から, 心の触れ合いについて考える。	・ワークの提出。
7	問題集 第2回 P12～19	・漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。	・しっかりとワークに取り組むことができたか。	
	評論1 考える手がかり 『科学的であるために』	・評論を読んで, 文章の構成, 展開, 要旨などを的確にとらえる。	・ワークの提出。	
7	問題集 第3回 P20～27	・思考のあり方に関する文章を手がかりに, さまざまな問題について自分の力で考える態度を養う。	・正しく内容が理解できたか。	
	問題集 第3回 P20～27	・漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。	・漢字練習プリント, ワークシートの提出。	
			・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。	
				・しっかりとワークに取り組むことができたか。

				<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークの提出。</li> </ul>
第 学 期	9	<p>詩歌 イメージの世界 『I was born』</p> <p>問題集 第4回 P28～35</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩歌を読んで、それぞれリズムや表現の特色を味わう。</li> <li>作品に託されたイメージを通じて、作者の心情を考える。</li> <li>漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌・俳句を味わうことができたか。</li> <li>意欲的に作業に取り組むことができたか。</li> <li>正しく内容が理解できたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> <li>しっかりとワークに取り組むことができたか。</li> <li>ワークの提出。</li> </ul>
		<p>小説2 物語の中へ 『山椒魚』</p> <p>問題集 第5回 P36～43</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寓話的な話のおもしろさを味わい、その主題と構想を理解する。</li> <li>漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく内容が理解できたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> <li>辞書等を用いて、正しく表現できたか。</li> <li>しっかりとワークに取り組むことができたか。</li> <li>ワークの提出。</li> </ul>
	11	<p>詩歌 イメージの世界 『信濃路』(短歌)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩歌を読んで、それぞれリズムや表現の特色を味わう。</li> <li>作品に託されたイメージを通じて、作者の心情を考える。</li> <li>文章の構成を把握し、抽象的な事柄に対する理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌を味わうことができたか。</li> <li>意欲的に作業に取り組むことができたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> </ul>
	12	<p>問題集 第6回 P44～51</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりとワークに取り組むことができたか。</li> <li>ワークの提出。</li> </ul>
第 3 学 期	1	<p>評論2 言葉と思考 『言葉と世界』</p> <p>問題集 第7回 P52～59</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評論を読んで、そこに提示された問題を正確に把握し、理解する。</li> <li>人間にとっての言葉の重要性について考えを深め、言語生活を豊かにする。</li> <li>漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく内容が理解できたか。</li> <li>文章の構成、内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。</li> <li>漢字練習プリント、ワークシートの提出。</li> <li>しっかりとワークに取り組むことができたか。</li> <li>ワークの提出。</li> </ul>
	2	<p>読書と人生 『塩一トンの読書』 『楽に働くこと、楽しく働くこと』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に関する文章を読んで、読書が生きていくうえで果たす役割について理解する。</li> <li>自ら進んでさまざまな書物を読み、視野を広げ、考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に文章を読むことができたか。</li> <li>自ら興味を持って本を選び、読書に親しむことができたか。</li> </ul>
	3	<p>『情景のなかの労働』 『鉄、千年のいのち』</p> <p>問題集 第8回 P60～67</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や慣用句等の言葉に関する学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりとワークに取り組むことができたか。</li> <li>ワークの提出。</li> </ul>

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す5つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
観点2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
観点4 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
観点5 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	○	◎	○	◎	漢字テスト・音声テストなど
提出物	◎	○	○	○	◎	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

平成28年度 古典Aの学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	古典A	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	右文書院 古典A 説話・随筆・故事・小話・漢詩・史話				
副教材等	古語辞典				

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて読解を深める。
- ③ 作品のものの見方や感じ方、考え方を話し合う。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	古文 古今著聞集「母子猿」	①何度も繰り返し音読し、古文のリズムに慣れる。 ②1年で学習した歴史的仮名遣いの特徴を再確認する。	①音読することによって、古文のリズムに慣れ、正しく読むことができたか。 ②歴史的仮名遣いの読み方が習得できているか。 プリントの提出。
	5	沙石集「児の飴食ひたること」	①何度も繰り返し音読する。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、正しく読むことができたか。
	6		②古語辞典を利用して、本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え、おもしろさを味わう。	②古語辞典の引き方を習得できたか。 ③係り結びが理解できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	7	十訓抄「文字一つの返し」	①何度も繰り返し音読する。 ②活用語は終止形に直し、古語辞典を利用して、本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え、おもしろさを味わう。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、正しく読むことができたか。 ②活用語は終止形に直して、的確に古語辞典を引くことができたか。 ③係り結びが習得できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	9	徒然草「つれづれなるままに」	①出典について理解する。 ②暗唱するまで繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④『徒然草』執筆の動機や態度をまとめる。	①作品や作者について理解できたか。 ②暗唱できたか。 ③正確に解釈することができたか。 ④作品執筆の動機や態度が理解できたか。 プリントの提出。
	10	徒然草「これも仁和寺の法師」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ③話のあらすじを捉え、おも	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ③本文を読み味わうことができ

2 学 期	11	枕草子「春はあけぼの」	しろさを味わう。 ①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④有名な序段の内容を視覚的に理解する。	たか。 プリントの提出。 ①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④序段の内容を絵に表現することができたか。 プリントの提出。
		枕草子「ありがたきもの」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ③枕草子の類聚的章段の特徴を理解する。	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ③類聚的章段の特徴を理解することができたか。 プリントの提出。
		方丈記「ゆく河の流れ」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④対句を理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④対句を理解できたか。 プリントの提出。
3 学 期	12	漢文 訓読の基本	①訓読の仕方を理解する。	①訓読の仕方を理解できたか。 プリント提出。
		「螢雪」 「守株」 「推敲」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。
		「画竜点睛」 「朝三暮四」 「蛇足」	③解釈する。	③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。 プリントの提出

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す3つの観点に基づき、学習内容のまとめりに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評価の観点及び内容	
観点1 関心・意欲・態度	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。
観点2 読む能力	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備考
学習状況の観察	◎	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	文法テスト・単語テストなど
提出物	◎	○	○	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

平成28年度 世界史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	世界史B	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	高校世界史B（山川出版社）				
副教材等	歴史風景館 世界史のパピリオン（とうほう）				

2 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連づけながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ① 教科書の写真や地図などを参考に基本事項の確認を行う。
- ② プリントを利用し，重要事項への関心を高める。
- ③ 具体例を増やし，興味関心を促す。
- ④ 教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	序章 世界史への扉	・人類が自然環境に適応しながら進化し，農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付く。	・教科書に掲載されている図版や写真を適切に活用し，人類の誕生と進化の過程を把握できたか。
		第1章 オリентと地中海	・西アジア世界の地理的特質を把握し，オリент文明の盛衰，エーゲ文明，ギリシア ・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 ・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	・地図・資料を用いて，オリент世界・地中海世界を比較できているか。 ・オリент世界・地中海世界の特色を風土をふまえつつ理解できているか。
	5	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・南・東南アジアの地理的特質を把握し，インド文明の成立と発展，独自の宗教・社会制度など，南・東南アジア世界の形成過程を理解する。 ・中国文明の起源，殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。 ・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	・都市文明を特徴とするインダス文明について把握できたか。 ・インドに侵入したアーリア人が定住して諸国家を形成したことを把握できたか。
		第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・内陸アジアの地理的特質を把握し，台頭した遊牧民とその国家の動向を，オアシス民の活動とともに理解する。 ・東アジアにおける北方遊牧民族の動向と，三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。	・東アジアに成立した中華文明と内陸アジア世界の形成，国家の成立，遊牧民との抗争，唐の支配体制及びその制度を取り入れた日本などの国家形成の過程を理解できたか。
		第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界成立の背景とその特質，アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。	・イスラーム教の成立とアラブ人の活動，イスラーム法に基づくイスラーム帝国の拡大について把握できたか。

	6	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム文明の特質とその影響, 学問と文化活動の内容, イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。</li> <li>・ヨーロッパの風土, ゲルマン人の移動, 西ヨーロッパ世界の形成, 西ヨーロッパ封建社会, カトリック教会と文化, ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の形成, 都市の発達と王権の伸長に関する資料を活用し, 基本的知識を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西ヨーロッパの形成, キリスト教と人びとの生活, 国王の中央集権化による封建制の定着などについて把握できたか。</li> </ul>
	7	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契丹・女真・モンゴルを中心とした内陸アジアの動向がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・13世紀のモンゴルが広大な地域を支配する過程を知ることができたか。また, 日本が元寇の危機を乗り越えたことを把握できたか。</li> </ul>
第2学期	9	第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16世紀～18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。</li> <li>・ルネサンス, 大航海時代, アメリカ大陸の古文明とその後の変貌, 宗教改革の動向を理解する。</li> <li>・主権国家体制の特色, ヨーロッパ国際関係と商業覇権の推移, 大西洋三角貿易の歴史的意義について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16～18世紀の中国と東アジアの情勢を把握できたか。</li> <li>・新しいヨーロッパ文化としてのルネサンスを知ることができたか。アジア・中南米に物産を求めてヨーロッパ各国が進出したことを理解できたか。宗教改革については触れる程度とする。国王による絶対主義と重商主義による植民地化を理解できたか。</li> </ul>
	10	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17世紀～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を理解すると共に, 各国のとった重商主義政策とその特徴を理解する。</li> <li>・産業革命の背景, 技術革新, 交通革命の仕組みを理解し, なぜイギリスがその舞台となり繁栄したか考察する。</li> <li>・アメリカ革命, フランス革命でどのように市民社会が誕生したか理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスから始まる産業革命と, ヨーロッパ及びアメリカの革命による国民国家形成という社会変革について理解できたか。</li> </ul>
	11	第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィーン体制の成立と, その体制下に広がった諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。</li> <li>・西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革, アジア諸国の動向を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ各国によるアジア地域の植民地化, 特に中国に対する利権争いの激烈化について把握できたか。</li> <li>・日本で江戸幕府が倒れ, 明治維新が起こったこと, 日本の朝鮮進出を理解できたか。</li> </ul>
		13	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめ</li> </ul>

	12		ぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。	把握できたか。
第 3 学 期	1	第14章 二つの世界大戦	・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。 ・ファシズムの特徴について理解する。	・未曾有の戦禍を引き起こした2度の戦争が、どのような社会情勢の中でおきたのかを理解できたか。
	2	第15章 冷戦と第三世界の独立	・第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。	・大戦後の米ソ冷戦及び世界の政治情勢と植民地の独立について把握できたか。平和の大切さを理解できたか。
	3	第16章 現在の世界	・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。 ・世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。	・現代の国際問題、科学技術の発達と現代文明に関する資料を収集・選択・活用するとともに、追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ、発表することができたか。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしたか。
2 思考・判断	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断できたか。
3 資料活用の技能・表現	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できたか。
4 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連つけながら理解し、身に付けられたか。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学A	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	東京書籍 新 数学A				
副教材等	ニューファースト 新 数学A				

2 学習目標

場合の数と確率, 整数の性質又は図形の性質について学習します。基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養いましょう。数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用していくとよいでしょう。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り, 授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また, 問題集などでの復習を通して, 理解した内容を定着させましょう。ぜひ, 苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	<p>1章 場合の数と確率</p> <p>1節 場合の数</p> <p>1 集合</p> <p>2 集合の要素の個数</p> <p>3 和の法則と積の法則</p> <p>4 順列</p> <p>5 順列の利用</p> <p>6 重複順列</p> <p>7 円順列</p> <p>8 組合せ</p> <p>9 組合せの利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分集合</li> <li>共通部分と和集合</li> <li>空集合と全体集合</li> <li>集合の要素の個数</li> <li>和の法則・積の法則</li> <li>順列</li> <li>重複順列</li> <li>円順列</li> <li>組合せ</li> </ul>	<p>部分集合, 全体集合, 補集合, 共通部分, 和集合などの集合の表し方, 用語, 記号を, 図を用いて理解し, 記号を使って表すことができる。集合の要素の個数を求めることができる。</p> <p>和の法則や積の法則について, 具体例を用いて理解し, 場合の数を効率よく求めることができる。</p> <p>順列の意味を理解し, 公式を用いて基本的な順列の総数を求めることができる。</p> <p>条件のついた順列の総数を求めることができる。</p> <p>重複順列・円順列の意味を理解し, 総数を求めることができる。</p> <p>組合せの意味や性質を理解し, 公式を用いて基本的な組合せの総数を求めることができる。組合せの考え方をいろいろな場面に利用して, 組合せの総数を求めることができる。</p>
第2学期	<p>2節 確率</p> <p>1 確率の意味</p> <p>2 確率の計算</p> <p>3 独立な試行の確率</p> <p>4 反復試行の確率</p> <p>5 条件つき確率</p> <p>2章 図形の性質</p> <p>1節 三角形の性質</p> <p>1 三角形と比</p> <p>2 三角形の重心・外心・内心</p> <p>3 角の二等分線と線分の比</p> <p>2節 円の性質</p> <p>1 円周角の定理</p> <p>2 円に内接する四角形</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行と事象</li> <li>確率の計算</li> <li>独立な試行</li> <li>反復試行</li> <li>排反事象の確率</li> <li>余事象の確率</li> <li>比の定理</li> <li>中点連結定理</li> <li>重心・外心・内心</li> <li>円周角の定理</li> <li>円の接線</li> <li>方べきの定理</li> </ul>	<p>試行と事象, 事象の確率について学び, 確率の意味を知り, 基本的な確率を求めることができる。</p> <p>場合の数をもとに, 確率を求めることができる。また, 確率の加法定理を理解し, 排反事象に分けて確率を求めることができる。余事象を利用して求めることができる。</p> <p>独立な試行の確率が積の法則により求められことを理解し, 簡単な独立な試行の確率を求めることができる。</p> <p>反復試行について理解し, 簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。</p> <p>条件つき確率の意味を理解する。</p> <p>三角形と比の定理と中点連結定理を理解し, それらを利用して, 線分の長さを求めることができる。</p> <p>三角形の中線, 辺の垂直二等分線, 角の二等分線の性質を考察し, 三角形の重心, 外心, 内心の性質を利用して, 線分の長さや角の大きさを求めることができる。</p> <p>三角形の角の二等分線と線分の比の定理を理解しそれを用いることができる。</p> <p>円周角の定理を理解し, それを利用して角の大きさを求めることができる。</p>

	3 円と直線 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円	・2つの円	また、円周角の定理の逆を利用して、4点が同一円周上にあるかどうかを判断できる。 円に内接する四角形の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。 円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。 円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、図形に対する能力をさらに伸ばす。 2つの円の位置関係と、2つの円に共通する接線の数について考察する。
第3学期	3節 作図 1 基本の作図 2 いろいろな作図  3章 整数の性質 1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数と最小公倍数	・垂直二等分線 ・垂線 ・角の二等分線  ・約数・倍数・素数 ・素因数分解  ・最大公約数・最小公倍数	垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。  約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。 最大公約数、最小公倍数の求め方を理解し、これを利用して、問題を解決することができる。また、最大公約数と最小公倍数の関係を理解する。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

#### 評価の観点及び内容

1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心を持ち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察		◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物		◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート		◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査		○	◎	◎	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成 28 年度 生物基礎の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	第 2 学年
使用する教科書	高校生物基礎（実教出版）				
副教材等	アクセスノート生物基礎（実教出版）				

2 学習目標

すべての生物は，細胞と呼ばれるものから作られています。生物基礎の授業では，まずは細胞の特徴や働きを学び，そこから生物の設計図である遺伝子に思いを馳せます。さらには生物の内的環境と外的環境にも目を向け，生物が日常的に行っている様々な反応について広く学習します。

生物基礎では生物や生物現象についての観察，実験を行い，自然に対する関心や探究心を深め，生物に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事に，積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには，板書を写すだけでなく，口頭での説明もきちんと記入しましょう。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には，そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し，実験に臨みましょう。また，レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	1 章 生物の特徴 1 節 生物の共通性と多様性	1 いろいろな生物 2 生物の共通性の由来 3 細胞の特徴	・生物の共通性に触れ，細胞の構造や働きについて理解する。 ・原核生物といった細胞の違いによる生物の分類を理解する。
	2 節 細胞とエネルギー	1 代謝とエネルギー 2 酵素 3 呼吸 4 光合成 5 ミトコンドリアと葉緑体の起源	・代謝には同化と異化があることを理解する。 ・酵素の働きと性質を理解する。 ・呼吸と光合成について，そのしくみを理解する。 ・細胞小器官の起源を通して，細胞内共生説を理解する。
	2 章 遺伝子とその働き 1 節 遺伝情報と DNA	1 ゲノムと遺伝子	・DNA が遺伝子の本体であることを証明した実験について学ぶ。

	2節 遺伝情報の分配	2 DNA研究の歴史 3 DNAの構造 1 細胞分裂とDNA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAの二重らせん構造について視覚的にも理解する。</li> <li>・体細胞分裂とDNAとの量的関係を理解する。</li> </ul>
第2学期	3節 遺伝情報とタンパク質の合成  3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境  2節 体内環境の維持のしくみ  3節 免疫	1 遺伝子とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現  1 体液と体内環境 2 恒常性にかかわるしくみ  1 自律神経系による調節 2 ホルモンによる調節 3 自律神経系とホルモンによる調節  1 生体防御 2 免疫のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質が生体に多く含まれ、重要な役割を担っていることを理解する。</li> <li>・タンパク質の合成過程を、DNAと関連づけて理解する。</li> <li>・恒常性を知り、体液の循環について理解する。</li> <li>・恒常性に関して腎臓や肝臓の果たしている役割を理解する。</li> <li>・自律神経系の働きを理解する。</li> <li>・種々のホルモンとそれぞれの働き、さらに血糖量調節や体温調節のしくみを詳しく理解する。</li> <li>・生体防御法である免疫の種類としくみについて深く理解する。</li> <li>・アレルギーや免疫不全があることを把握する。</li> </ul>
第3学期	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移  2節 気候とバイオーム  3節 生態系と物質循環	1 植物の生活と環境 2 植生とその構造 3 遷移と極相  1 バイオームの分布  1 生態系 2 エネルギーの流れと物質循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物と環境との関係を光合成や蒸散といった観点から理解する。</li> <li>・森林の構造や植物の種類を通して植生を理解する。</li> <li>・植生の移り変わりを、周囲の環境の変化と併せて理解する。</li> <li>・気温・降水量とバイオームとを関連づけて理解する。</li> <li>・様々な生態系とそのバランスについて、物質循環やエネルギーの流れを通して理解する。</li> </ul>

		3 生態系のバランス	
4 節 生態系のバランスと保全		1 人間生活と生態系 2 生態系の保全	人間生活が生態系に与える悪影響と、それへの対応策を深く学ぶ。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
2 「思考・判断・表現」	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出された考えを的確に表現している。
3 「観察・実験の技能」	生物や生物現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
4 「知識・理解」	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察		◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物		○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート		◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査		○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	○集団行動 ○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択① サッカー, バスケボール, 卓球, バドミントン ○水泳	①姿勢②方向変換③集合, 整とん, 番号, 解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・体ほぐしの運動, 体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・基本動作 (姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減) ができたか。 ・持久性, スピード, 筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・自己の目標を設定し, その目標に取り組んだり, チーム内で協力したりできたか。 ・より長く, より速く泳げるように, 自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	○体力づくり運動 ○体育理論 柔道, ダンス ○選択②, ③ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケボール, サッカー, 持久走	・体力を高める運動 ・体育理論 ・柔道 (受身・寝技・立ち技等) ・ダンス (フォークダンス, 創作ダンス等) ・基本技術の習得 ・ゲーム	・礼儀作法・技の習得ができたか。 ・グループでダンスを創作し, 発表できたか。 ・サービス, パス, レーブ, スパイクができたか。 ・キャッチボール, バッティングができたか。 ・サービス, スマッシュ, ボレーができたか。 ・シングル及びダブルスのゲームができたか。 ・パス, キャッチ, ドリブル, シュートができたか。 ・パス, トラップ, ドリブル, シュートできたか。 ・ルールを理解し, ゲームができたか。
第3学期	○体育理論 ○選択④, ⑤ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケボール, サッカー, 持久走	・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て, 協力して準備やゲームを行う。	・基本技術の習得ができたか。 ・チームや個人で作戦を立て, 協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し, 自分達でゲームを展開, 運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「運動の技能」、観点4「知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
3 運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
4 知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度、取り組み。準備・片付け、協力等。
実技	◎	○	◎	◎	練習やゲーム等。
技能テスト	○	◎	◎	◎	種目や学期毎で実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保健	単位数	1	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	最新高等保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新高等保健体育ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

人は生涯の各段階で、さまざまな健康問題に出会います。まず、思春期である今の心や体を理解し、適切に行動できるようにすることが目標です。また、中高年期においていずれ出会うであろう健康課題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用・自然環境や社会の制度・食品の問題・労働と健康について学び、生涯を通じた健康を理解することを第2の目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健(健康問題も含む)の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性への関心・欲求と性行動の選択 3 妊娠・出産と健康 4 避妊法の選択と人工妊娠中絶 5 結婚生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女の生殖器の発達</li> <li>女性の性周期</li> <li>男女の違い(性差)</li> <li>受精, 妊娠, 出産</li> <li>家族計画と正しい避妊法</li> <li>結婚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の性周期(月経・排卵)や男性の射精などの性機能を理解することができたか。</li> <li>性意識に関する男女差を理解できたか。</li> <li>受精・妊娠・出産の過程を説明できたか。</li> <li>家族計画の意義や方法を理解できたか。</li> <li>健康な結婚生活を考えることができたか。</li> </ul>
第2学期	6 中高年期の健康 7 医薬品とその活用 8 医療サービスとその活用 9 保健サービスとその活用 10 さまざまな保健活動や対策  社会生活と健康 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁, 土壌汚染と健康 3 環境汚染を防ぐ取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>老化, 骨粗しょう症</li> <li>医薬品の正しい使用法</li> <li>医療保険のしくみ</li> <li>保健所と保健センター</li> <li>民間・国際機関の保健活動</li> <li>大気汚染の原因</li> <li>水質汚濁, 土壌汚染の原因</li> <li>環境汚染の特徴と対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加齢による変化を理解することができたか。</li> <li>医薬品の正しい使用法が理解できたか。</li> <li>医療保険のしくみを理解できたか。</li> <li>医師に対し受け身でなく積極的に情報を得て判断する努力が必要なことを理解できたか。</li> <li>民間機関・国際機関などの保健活動や対策について理解できたか。</li> <li>汚染源や健康被害を及ぼす条件を説明できたか。</li> <li>環境問題を積極的に調べて、自分にできることを実践しようとしたか。</li> </ul>
第3学期	4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全を守る活動 6 働くことと健康 7 働く人の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型社会</li> <li>食中毒予防</li> <li>労働災害</li> <li>メンタルヘルスケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で実践できているか。</li> <li>職業病や労働災害を防ぐために、雇用者及び働く人自身がどのような取り組みが必要なのかを理解できたか。</li> </ul>

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「知識・理解」という3つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	生涯を通じる健康, 社会生活と健康について関心を持ち, 意欲的に学習に取り組もうとする。
2 思考・判断	生涯を通じる健康, 社会生活と健康について, 課題の解決を目指して総合的に考え, 判断し, それらを表している。
3 知識・理解	生涯を通じる健康, 社会生活と健康について, 課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	授業中の態度, 取り組み。
ノート	◎	○	◎	年間3回提出
課題・宿題	◎	○	◎	毎時間
定期考査	○	◎	◎	年間3回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成28年度 音楽Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	ON! 2 音楽之友社				
副教材等					

2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歌唱を通して, 旋律や歌詞の美しさ, ハーモニーの響きを味わうことができる。</li> <li>2 器楽を通して, 楽器の演奏技術を高め, 合奏で協調性を養い, 演奏する楽しさを味わう。</li> <li>3 鑑賞を通して, 様々な分野の音楽を味わい, 豊かな心を育てる。</li> <li>4 楽典を通して, 音楽の基礎知識を学び, 理解を深める。</li> </ol>
---

3 学習方法

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歌唱においては, 季節の歌や外国語の歌など様々な分野を取り入れ, 曲の特徴を知り, また合唱などで美しい響きを表現します。</li> <li>2 器楽においては, ギターで楽器の構造を知り, 奏法や指使い, 響きについて学びます。</li> <li>3 鑑賞においては, 様々な分野の音楽を鑑賞し, 感想記録を通して, 興味関心を深めます。</li> <li>4 実技においては, 学習記録表を用いて, 個人の進捗状況を把握します。</li> </ol>
--

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱・日本唱歌</li> <li>・器楽・ギター (音階)</li> <li>・鑑賞・西洋音楽</li> <li>・楽典・聴音・音符休符</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌を歌い, 発声に留意しながら日本唱歌を味わう。</li> <li>・ギターの構造を知る。音階の指使いを知る。</li> <li>・古典派の音楽を鑑賞する。ベートーヴェンを知る。</li> <li>・聴音は1オクターブの単音を聴き取り, 楽譜に書く。音符休符の基礎知識を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本唱歌の歌唱試験を行う。(歌詞把握・声量・音程など)</li> <li>・音階試験を行う。(指使い・音色など)</li> <li>・鑑賞の感想提出・ベートーヴェンについてまとめる。</li> <li>・楽典・聴音の小テストを行う。(聴音は1オクターブ単音)</li> </ul>
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱・季節の歌・外国語</li> <li>・器楽・ギター (コード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「里の秋」「冬景色」などを歌い, 歌詞の美しさや季節感を味わう。また三部合唱でハーモニーの美しさを味わう。</li> <li>・英語「Joyful, Joyful」を通して, 歌詞の意味やリズムを味わい, 親しみを持つ。</li> <li>・ギターのコードの押さえ方を覚える。コードの構造について知る。簡単なコード演奏をして, 和音の響きを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単旋律と合唱の歌唱試験をグループで行う。(声量・音程・表現)</li> <li>・コードの押さえ方の試験を, 曲演奏を通して行う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞・日本音楽</li> <li>楽典・聴音・楽語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長唄や歌舞伎の鑑賞を通して、その意味や、伝統音楽を味わう。</li> <li>聴音は単音と2和音を聴き取り、楽譜の書き方を学ぶ。楽語を覚える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞の感想提出。伝統音楽をまとめ、提出。</li> <li>楽典・聴音小テストを行う。(聴音は1オクターブ単音と2和音)</li> </ul>
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱・季節の歌・外国語</li> <li>器楽・ギター (まとめ)</li> <li>鑑賞・バレエ音楽</li> <li>楽典・聴音・音階</li> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の歌の合唱や、イタリア語の歌を歌い、旋律やリズムを味わう。外国語は発音に留意する。</li> <li>ギターは個人の進度に応じて選曲し、練習する。グループプレッスンを行う。</li> <li>バレエを鑑賞する。</li> <li>聴音はリズム聴音の書き方を知る(四分音符・八分音符)。長調・短調の音階を覚える。</li> <li>三部合唱でハーモニーの美しさを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音や発声に留意し、イタリア語歌唱試験を行う。(発声・発音・音程)</li> <li>選曲に応じて、グループ発表会を行う。</li> <li>鑑賞の感想を提出。バレエの歴史についてまとめる。</li> <li>楽典・聴音の小テストを行う。(聴音は1オクターブ単音と2和音、リズム聴音)</li> </ul>

## 5 学習評価

- 歌唱・器楽・楽典は学期ごとに試験を行います(個人・グループ評価)。
- 鑑賞の感想、音楽史まとめ、実技における学習の記録で評価します。

評価は、観点1「音楽表現の技能」観点2「音楽表現の創意工夫」観点3「鑑賞の能力」観点4「音楽への関心・意欲・態度」の4つの観点に基づいて行います。日々の授業に取り組む姿勢も大切です。

実技試験においても、試験だけではなく、そこまでの練習過程も重視します。

評価方法は次の通りです。

評価方法/観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
実技試験	◎	◎	○	◎	歌唱・器楽の試験を行う。
楽典試験	○	○	◎	◎	楽典・聴音・音楽史等試験を行う
提出物	◎	◎	◎	○	鑑賞の感想・実技練習記録・楽典音楽史プリント

(◎=観点の中で特に重視するもの)

平成28年度 コミュニケーション英語Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）				
副教材等	プレップイングリッシュ【改訂版】（旺文社）				

2 学習目標

<p>◎1年生のときと同様に，英語に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションをする力を養うために，次の4点を目標に学習します。</p> <p>(1)「ボキャブラリー」を増やそう。</p> <p>(2)基本的な英文法をしっかりと身につけよう。</p> <p>(3)簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。</p> <p>(4)外国の文化に興味や関心を持とう。</p>
--

3 学習方法

<p>◎英語学習にマジックはありません。「地道にコツコツ，すべきことを続ける」，これこそ最高の学習方法です。では，「すべきこと」とはなんでしょう？答えは，下記のとおりです。</p> <p>① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。</p> <p>② 次の授業に備えての予習や，その日学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。</p> <p>③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかりと準備すれば高得点が取れます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。</p>
--

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	<p>1年生の復習</p> <p>L1 World Breakfasts ベトナム，ブラジル，ドイツの朝食に見られる文化を考えよう。</p> <p>プレップイングリッシュ</p>	<p>1年生で学習した，基礎的なボキャブラリーと文法を再確認する。</p> <p>疑問詞とif節の用法を理解する。</p> <p>代名詞</p> <p>be 動詞</p>	<p>・基本的な単語や熟語は身につけているか。</p> <p>・主に動詞の用法に関して，基礎的な文法事項は身につけているか。</p> <p>・本文の内容は理解できたか。</p> <p>・疑問詞を用いて表現活動を行うことができるか。</p> <p>・if節とその用法について理解できたか。</p> <p>・新出言語材料は身についたか。</p> <p>・代名詞を覚え，使い分けることができたか。</p> <p>・be 動詞を正しく使って表現できたか。</p>
	<p>L2 The Emerald Isle アイルランドの文化・郷土について考えよう。</p> <p>L3 Sakana-kun クニマスの再発見に関する英文を読み取ろう。</p>	<p>比較級・最上級の用法について理解する。</p> <p>名詞を修飾する現在分詞・過去分詞の用法を理解する。</p>	<p>・本文の内容は理解できたか。</p> <p>・比較級・最上級を用いた表現をすることができるか。</p> <p>・新出言語材料は身についたか。</p> <p>・本文の内容は理解できたか。</p> <p>・現在分詞・過去分詞を用いて名詞を修飾することはできるか。</p>

第2学期	L4 Nobel Prize Episodes ノーベル賞にまつわる英文を読み、背景やエピソードを理解しよう。  プレップイングリッシュ	知覚動詞や tell 人 to do の表現を理解する。  前置詞  There is (are)～  一般動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料は身についたか。</li> <li>・本文の内容は理解できたか。</li> <li>・知覚動詞の用法を理解できたか。</li> <li>・tell 人 to do を用いた表現をすることができるか。</li> <li>・新出言語材料は身についたか。</li> <li>・前置詞を使い分けて使用することができるか。</li> <li>・There is (are)の表現を正しく使うことができるか。</li> <li>・一般動詞の単語は身についたか。</li> <li>・疑問文・否定文・3単元の s を用いて表現することができるか。</li> </ul>
第3学期	L5 Flowers in the Tomb ツタンカーメンの墓を発見したハワード・カーターの話を読み、理解を深めよう。  プレップイングリッシュ	使役動詞と関係代名詞 what の用法を理解する。  命令文  過去形  疑問詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容は理解できたか。</li> <li>・使役動詞の意味と用法を理解できたか。</li> <li>・関係代名詞whatを用いた表現をすることができるか。</li> <li>・新出言語材料は身についたか。</li> <li>・命令文の意味と用法を理解することができたか。</li> <li>・過去形の意味と用法を理解することができたか。</li> <li>・それぞれの疑問詞の意味を理解し、適切に表現できるか。</li> </ul>

## 5 学習評価

評価は1年生のときとまったく同様に、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは、2年生でも定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

### ★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物 きちんと仕上げ、期日までに提出できているか。

★小テスト 学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

◎要するに、「テストの得点+普段の努力」が大切ということです。

平成 28 年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	2 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	家庭総合～ともに生きる 明日をつくる～ (教育図書)				
副教材等	生活ガイドブック データ&グラフ (教育図書)				

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活の中から課題を見だし, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。</li> <li>・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。</li> </ul>
---

3 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。</li> <li>②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。</li> <li>③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。</li> <li>④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。</li> </ul>
--

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	<p>《単元》食生活</p> <p>①なぜ食べるの?</p> <p>②何を食べるの?</p> <p>③食品の選択と取り扱い</p> <p>④献立づくりと調理</p> <p>⑤食と暮らしのかかわりを 知ろう</p> <p>※家庭科技術検定食物調理 4 級受検対策</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《ねらい》</p> <p>豊かな食生活を実現させるため, 栄養・食品・調理などについて科学的に理解させ, 必要な技術を習得する。また, 食文化の関心を深めるとともに, 環境に配慮した食生活に実現を目指す。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義 ②講義 ③調べ学習 ④実習 ⑤講義 ※実技・講義</p>	<p>①健康によい食習慣を身に付けることに関心を持つことができたか。</p> <p>②五大栄養素の働きとその食品について理解することができたか。</p> <p>③食品に関する正しい知識を身に付け, 安全な食生活を実践しようとすることができたか。</p> <p>④食事摂取基準を理解し, バランスのよい一日の献立を考えることができたか。また, 調理技術の習得, 食の安全と衛生への関心を持ち, 実習に取り組むことができたか。</p> <p>⑤生活者として世界的な食糧事情を理解し, 環境に配慮した食の意識を持つことができたか。</p>
第 2 学期	<p>《単元》人の一生と家族</p> <p>①人生ってなんだろう</p> <p>②青年期とはどんな時期?</p> <p>③家族ってなんだろう?</p> <p>④家族と社会とのかかわりは?</p> <p>《単元》高齢者とともに</p> <p>①社会はどう高齢化するの だろう?</p> <p>②高齢者ってどういう時期 ?</p> <p>③高齢期の生活を支えるし くみは?</p> <p>④高齢者の介護を学ぼう</p> <p>《単元》共生社会</p> <p>①共生ってなんだろう?</p>	<p>《ねらい》</p> <p>人の一生を生涯発達の視点でとらえ, 家族・家庭の意義, 社会とのつながりを理解させる。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義 ②実習 ③調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》</p> <p>高齢者に対する正しい認識から, 介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義・ディベート ②講義・実習 ③調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》</p> <p>ノーマライゼーションの考え方を学び, 人々がどう支え合うか知る。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①調べ学習・講義</p>	<p>①人の一生を考え, 自分のライフコースを描けたか。</p> <p>②人生における青年期の重要性について理解できたか。</p> <p>③家族の役割を理解し, 家族のあり方について考えることができたか。</p> <p>④家族に関する法律を理解し, 将来の設計に役立てようとすることができたか。</p> <p>①日本や世界で高齢化が進む仕組みを理解できたか。</p> <p>②高齢期の特徴を理解し, 青年期との違いについて考えることができるか。</p> <p>③高齢者に対する実態や課題を考え, 高齢社会を理解することができたか。</p> <p>④介護の目的と方法を理解することができたか。</p> <p>①ノーマライゼーションの考えを知り, 様々な人と共生できる社会を築こうとしているか。</p>

	<p>《单元》保育</p> <p>①赤ちゃんはなぜかわいい？</p> <p>②子どもはどう育つのだろう？</p> <p>③親になるとはどういうことか</p> <p>④子育てを支える社会のしくみは？</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《ねらい》</p> <p>子どもの発達、保育、福祉をとおして、健全な発達を支える親や社会の役割を理解させるとともに、保育への関心を深める。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①調べ学習</p> <p>②講義・実習</p> <p>③調べ学習・講義</p> <p>④調べ学習・講義</p>	<p>①命の尊さから出産を見つめ、保育に関する事に理解を深めることができたか。</p> <p>②子どもの成長過程の理解を深め、知識を生かそうとすることができたか。</p> <p>③子どもに関心を持ち、親の役割と社会の関わりについて理解することができたか。</p> <p>④子どもの福祉について、少子高齢社会の側面から理解することができたか。</p>
第3学期	<p>《单元》環境</p> <p>①生活を見つめてみよう</p> <p>②環境のためにできることって？</p> <p>《单元》ホームプロジェクト</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《ねらい》</p> <p>家庭経済や消費生活の基礎的な知識を習得し、持続可能な社会を目指した消費行動へとつなげる。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義・ディベート</p> <p>②調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》</p> <p>二年間の学習から課題を見つけ生活に生かす。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>問題解決学習</p>	<p>①くらしの中にある環境問題に対して、自分のこととして取り組むことができたか。</p> <p>②自分にできることを明確にし、環境問題を理解することができたか。</p> <p>①生活課題を主体的に見出し、課題解決に向けて、学習によって習得した知識を適切に活用できたか。</p>

## 5 学習評価

観点1	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。
観点2	思考・判断・表現	家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。
観点3	技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。
観点4	知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。

観点 評価方法	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	○	◎	学期末考査等
提出物	◎	◎	○	○	課題等
実技	◎	○	◎	○	調理実習等

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。